

日本のマリアニスト家族



1888年、マリア会員（SM）により、東京に小さな学校が創立されました。当時の日本はまだ鎖国政策が続いていて、彼らの活動の場は東京のほんの小さな地域（居留地）に限られていました。1924年にシャミナード修道院が創立され、宣教活動が始まりました。

1949年、汚れなきマリア修道会（FMI）の2人のシスターにより東京の郊外で宣教活動、修道生活が始まり、幼稚園の創立に続いて小学校・中学校・高等学校と教育活動が日本の地に根付くことになりました。

第2次世界大戦後、既存の職業、社会生活を保持しながら奉献生活を送る在俗会の創設の動きに合わせて、日本にもアリアンス・マリアル（AM）が創立されて、現在では世界中の会員と深い交流を深めています。ちなみに、AMが4つの枝の一翼を占めている国は数多くありません。日本はその少数の国の一つです。

一方、MLCの創立は、SMとFMIの呼びかけにより、1980年代から始まりすでに40年になる歴史を擁しています。現在8つの共同体が東京を中心に日本全国でその役割を果たすために努力しています。

ここに示した『マリアニストの木』は、その繋がりとそれぞれの役割を表したものです。太い根を持つマリアニスト家族の木は、SM、FMI、AM、MLCの枝に分かれ、それぞれがマリアの使命に忠実に、人々が必要としていることに応える努力を精一杯行っている様子を表しています。



平田 潔
MLC日本代表

「マスク」と「マリアニストかるた」

新型コロナウイルスの動向に一喜一憂して、常に緊張を強いられる日常生活を送る子どもたちを目の前にして、MLCは何ができるのだろうかということが2020年前半の課題でした。

それでも、2020年の活動の中でハイライトになるものはマスク作りです。制作に参加できるメンバーが自発的に制作し、自分で使ったり、プレゼントとして人にあげたりしました。covid-19の収束が早まり、生徒たちの日常生活が元に戻り、MLCの集まりが祝福を受けて、世のためになる日を待っています。



さて、MLCが毎年定期的に行っている活動の一つを紹介します。毎年晃華学園小学校のシャミナード会の生徒たちのために、手作り作業を中心とした集まりをしています。すでに5年の月日がたっています。その活動の中で、生徒たちに特に強い印象を与えた集まりを紹介します。今年は残念ながら、学校が休校になり、その期間が長かったために集まりを持てなくなりましたが、今までの私たちの活動の一部を紹介しましょう。



それは、「マリアニストかるた」を作ることでした。シャミナード師とアデル・トランケレオンの生涯と業績を30枚ほどの「かるた」にまとめて、遊びながら学習ができるようにしました。もちろん、絵は生徒が描き、読み札の言葉は先生とMLCが準備しました。出来上がってから遊んでみましたが、なかなかよくできていました。

平田 潔
日本MLC代表

